2026年11月6日 東証決算動向分析レポート：歴史的急落下の業績精査と中長期成長評価

マクロ相場環境と地合いの峻別

2026年11月6日の東京株式市場は、日経平均株価が前営業日比で3,643円13銭安（−5.96%）の5万7,434円77銭と大幅に5日続落し、終値ベースの下落幅として史上3番目の記録的な急落となった[1]。前日の米国市場において、人工知能（AI）関連の過熱感後退や信用リスクへの懸念からナスダック総合指数が大幅反落し、フィラデルフィア半導体株指数（SOX）が12%安と急落した波潮が直撃した[2]。東証プライム市場では値下がり銘柄数が1,523に達し、値上がりはわずか21銘柄（全体の約1%）にとどまる全面安商状を呈した[2]。

このような極端な流動性収縮とインデックス売りが支配する局面では、個別企業のファンダメンタルズとは無関係に換金売りが先行する。したがって、当日の株価変動を客観的に評価するためには、「全体相場のシステムリスクに起因する連れ安」と「引け後に開示された決算短信および業績修正の実質的インパクト」を精緻に切り分けることが不可欠である。

当日は取引時間中および大引け後を合わせて東証上場の計255社が決算発表を実施した[5]。本稿では、株探の注目決算や出来高・時価総額上位の動向を踏まえ、業績進捗が良好な「好決算」、市場の関心を集める「注目決算」、そして1〜3年先の中長期的な成長動力を有する「先を見据えた決算」の3つの観点から9社を厳選し、その内容を精査・総括する。

セクター別主要ピックアップ銘柄の総括比較

下表は、抽出した9銘柄についてセクター順（機械、電気機器、その他製品、情報・通信業、不動産業）に整理し、市場区分、選定観点、開示時刻、業績数値、通期見通し（会社予想か実績かの別）、および地合い要因と個別要因の切り分けを突合した一覧である。

セクター	銘柄名(コード)	市場区分	選定観点	開示時刻	決算概要・通期見通し（会社予想／実績の別）	地合いと個別要因の切り分け
機械	三菱重工業 (7011)	プライム	先を見据えた決算／注目決算	13:30	【第2四半期実績】上期は防衛・エネルギー分野が牽引し進捗良好[6]。	場中公表直後は好感されたものの、日経平均3,643円安のパニック売り

					【通期見通し・会社予想】売上収益を6.0兆円（+11.1%増額）、最終利益を4,400億円（+15.8%上方修正、最高益上乗せ）へ修正[7]。自社株買い・消却を発表[8]。	に押され終値は−4.6%安[3]。下落は完全に外部地合い起因であり、中長期の受注残高は強固。
電気機器	TOWA (6315)	プライム	好決算	15:30	【第2四半期実績】上期経常利益は前年同期比2.2倍の52.8億円[11]。 【通期見通し・会社予想】通期経常利益を24.5%上方修正し127.5億円（前期比83.5%増、5期ぶり最高益）	日中は米SOX指数12%安の影響で売られたが、引け後の最高益上方修正と増配により、先端半導体封止の実需拡大が再確認された[3]。

					へ引き上げ[11]。期末配当を6円増額（年間30円）[11]。	
電気機器	santec Holdings (6777)	スタンダード	好決算	15:40	【第2四半期実績】光測定器・光部品が好調に推移[12]。 【通期見通し・会社予想】通期経常利益を48%上方修正し最高益予想を大幅上乗せ[14]。年間配当を100円増額し330円へ修正[13]。	全面安の中で日中取引を終えたが、引け後のサプライズ上方修正と大幅増配を受け、PTSナイトセッションで+17.9%高と地合いを完全に跳ね返した[14]。
電気機器	メイコー (6787)	プライム	好決算	15:30	【第2四半期実績】車載および通信向け高多層基板が堅調[14]。 【通期見通し・会社予想】通期経常利	電子部品株の急落に連れ安したものの、引け後の大幅上方修正を受けてPTS市場では終値比+16%～+22%と

					益を29%上方修正し最高益上乗せ、配当増額修正を発表[14]。	急反騰した[16]。
電気機器	ニチコン(6996)	プライム	好決算	15:30	【第2四半期実績】上期経常利益は前年同期比3.2倍の74.4億円に急拡大[19]。 【通期見通し・会社予想】通期経常利益を39%上方修正[14]。	全体地合いの悪化に伴い日中は軟調だったが、産業機器・車載用コンデンサの需要回復と収益改善が実証された[3]。
その他製品	サンリオ(8136)	プライム	注目決算	15:30	【第2四半期実績】上期営業利益は前年同期比9.4%増で中間期最高益[20]。2Q単体の売上営業利益率は36.7%へ低下（前年同期42.6%）[21]。	日中は地合い悪化で−6.5%安[22]。最高益ながら市場の高い上方修正期待に対する据え置きと利益率低下が嫌気されPTSで約−10%急落した[16]。

					【通期見通し・会社予想】通期会社予想は据え置き[5]。	
情報・通信業	フィックスターズ(3687)	プライム	好決算／先を見据えた決算	16:30	【本決算実績】26年9月期4Q経常は前年同期比36.8%増[23]。 【通期見通し・会社予想】27年9月期経常は前期比7%増の22.0億円と6期連続最高益を見込む[14]。年間配当は前期比3円増の22円を計画[23]。	米国ハイテク株安の波及で日中は売りが先行したが、引け後に最高益更新と増配を開示[3]。ソフトウェア高速化需要の持続性が確認された。
情報・通信業	KDDI(9433)	プライム	注目決算	15:45	【第2四半期実績】上期最終利益は前年同期比1%増益も、7-9月期単体では16%減	指数急落（−5.96%）に対し終値は−3.6%と下値耐性を示したが、引け後の四半

					益[24]。 【通期見通し・会社予想】期首計画を維持（詳細項目は未確認）[5]。	期減益発表を受けPTSで軟調に推移した[17]。
不動産業	三井不動産 (8801)	プライム	注目決算／先を見据えた決算	15:30	【第2四半期実績】上期経常利益は前年同期比25%減益[26]。自社株買いを発表[27]。 【通期見通し・会社予想】通期経常利益は前期比0.5%増益予想を据え置き[5]。	日中は金利上昇警戒と相場急落で−7.2%安[28]。自社株買い発表はあるものの、上期減益着地が嫌気されPTSでさらに−6.9%続落した[16]。

セクター別の決算精査と構造評価

機械セクター

機械セクターを代表する三菱重工業（証券コード:7011、プライム市場）は、取引時間中の13時30分に2027年3月期第2四半期（中間期）の連結決算（国際会計基準＝IFRS）を発表した[6]。地政学リスクの高まりを背景とした防衛関連需要の継続的な拡大に加え、脱炭素・エネルギー安定供給に向けた高効率ガスタービンなどの大型プラント案件が好調に推移した[6]。

同社は通期の連結業績見通し（会社予想）を上方修正し、売上収益を従来の5兆4,000億円から6兆0,000億円（+11.1%上方修正、前期比+20.6%）へ、事業利益等を含む経常水準の利益を5,300億円から6,000億円（+13.2%上方修正、前期比+26.4%）へ、当期最終利益を3,800億円から4,400億円（+15.8%上方修正、前期比+32.5%）へと大幅に引き上げ、過去最高益予想を上乗せした[7]。年間配

当予想は前期比4円増となる1株当たり29円を据え置いたものの、資本効率の向上を意図した自己株式の取得および消却を併せて公表した[7]。

当日の市場では、13時30分の開示直後に買いが先行する場面が見られたが、日経平均株価が一時4,300円超下落するというパニック的な相場環境の中で主力銘柄に対する手仕舞い売りや換金売りに押され、終値は前日比−4.6%安の2,912.5円と6日続落となった[9]。しかしながら、株価下落は市場全体の流動性逼迫による影響が支配的であり、防衛装備品や発電インフラにおける数年単位の豊富な受注残高を考慮すれば、1〜3年先を見据えた業績の可視性とファンダメンタルズの堅牢性は依然として揺るぎない。

電気機器セクター

電気機器セクターでは、米SOX指数が前日に12%急落した影響を受け、前場から半導体・電子部品関連株に対する広範な売り圧力が顕在化した[3]。しかし、大引け後に発表された複数の決算では、生成AIサーバーや車載エレクトロニクス向けの実需が極めて旺盛であることが確認された[11]。

TOWA（証券コード：6315、プライム市場）は、大引け後の15時30分に2027年3月期第2四半期累計（4-9月）決算を発表した[11]。上期の連結経常利益は前年同期比2.2倍の52億8,000万円（従来予想比+3.1%上振れ）に達し、通期の連結業績見通し（会社予想）を大幅に上方修正した[11]。通期経常利益は従来の102億4,000万円から127億5,000万円（+24.5%上方修正、前期比+83.5%）へと引き上げられ、5期ぶりに過去最高益を更新する見通しとなった[11]。期末配当予想も従来の24円から30円へと6円増額修正され、年間配当は前期比10円増の30円が予定されている[11]。生成AI向け広帯域メモリ（HBM）等の先端パッケージング工程における樹脂封止装置の独占的競争力が業績を牽引しており、日中の相場急落とは完全に乖離した好業績を示した。

santec Holdings（証券コード：6777、スタンダード市場）は、15時40分に第2四半期決算を発表し、通期の連結経常利益見通し（会社予想）を従来予想から48%引き上げる極めて強力なサプライズ上方修正を実施した[13]。併せて年間配当予想を従来の230円（未確認の内訳調整を含む試算ベース）から一挙に100円増額し、1株当たり330円（前期比+58.7%増配）へと修正した[13]。データセンター内の光通信ネットワーク増強に伴う光測定器・光部品の逼迫した需要が背景にある。この結果、夜間の私設取引システム（PTS）ナイトセッションでは終値比+17.9%高の15,550円まで急騰し、全体地合いの悪化を完全に跳ね返す動きとなった[16]。

メイコー（証券コード：6787、プライム市場）も15時30分に第2四半期決算を開示し、車載電装化およびAI関連通信機器向けの高多層基板の需要増を背景に、通期連結経常利益見通し（会社予想）を29%上方修正して最高益予想を上乗せし、配当増額修正を発表した[14]。これを受けてPTS市場では終値比で一時+22.5%高まで買われた[17]。さらに、ニチコン（証券コード：6996、プライム市場）は、上期連結経常利益が前年同期比3.2倍の74億4,000万円に急拡大し、通期経常利益見通し（会社予想）を39%上方修正した[14]。これら各社の動きは、日中のエレクトロニクス株急落がマクロ的センチメントの悪化によるものであり、中核企業の収益環境自体は力強い拡大サイクルにあることを証明している。

その他製品セクター

その他製品セクターの代表格であるサンリオ（証券コード：8136、プライム市場）は、15時30分に2027年3月期第2四半期累計（4-9月）決算を発表した[21]。上期の連結営業利益は前年同期比9.4%増となり、中間期としての過去最高益を更新した[20]。北米およびアジア地域を中心としたグローバル市場における自社キャラクターのIP（知的財産）展開やライセンス収入が堅調に推移した[20]。

しかしながら、直近3ヵ月実績である7-9月期（2Q単体）の連結経常利益は前年同期比4.8%増の204億円にとどまり、売上営業利益率は前年同期の42.6%から36.7%へと低下した[21]。さらに、好調な上期着地にもかかわらず通期の連結業績見通し（会社予想）が据え置かれたことが市場に失望感を与えた[5]。同社株は日中取引でも地合いの悪化により前日比−6.5%安の1,216円まで下落していたが、引け後の発表を受けてPTSデイタイムおよびナイトセッションでは終値比約−10%安（1,093.5〜1,099円）まで大幅に続落した[16]。これは地合い全体の下げとは異なり、事前に極めて高く設定されていた市場コンセンサスや上方修正期待に対して会社計画が慎重に据え置かれたこと、ならびに四半期利益率の鈍化が嫌気された個別要因による下落である。

情報・通信業セクター

情報・通信業セクターでは、高収益ITソフトウェア企業と大手通信キャリアの間で対照的な動向が見られた。

フィックスターズ（証券コード：3687、プライム市場）は、16時30分に2026年9月期の通期連結本決算実績および2027年9月期の通期連結業績予想を発表した[23]。直近四半期である2026年9月期4Qの連結経常利益は前年同期比36.8%増の6.7億円へと伸長し、売上営業利益率は前年同期の19.3%から24.8%へと大幅に向上した[23]。進行期となる2027年9月期の通期見通し（会社予想）については、連結経常利益が前期比7%増の22.0億円と6期連続での過去最高益更新を見込み、年間配当も前期比3円増配の22円とする方針を示した[14]。生成AIの運用効率化や車載向けソフトウェアの高速化需要を背景に、同社独自のアルゴリズム実装技術に対する構造的な需要が継続しており、1〜3年の中長期視点において高収益な成長軌道が維持される見通しである。

一方、通信インフラ大手のKDDI（証券コード：9433、プライム市場）は、15時45分に2027年3月期第2四半期累計（4-9月）決算（IFRS）を開示した[24]。上期の最終利益は前年同期比1%増益を確保したものの、7-9月期（2Q単体）では前年同期比16%減益へと減速した[24]。通期連結業績見通し（会社予想）は期首予想を据え置いている（詳細な未開示項目は未確認）[5]。日中の取引では日経平均の暴落（−5.96%）に対して終値2,833.5円（−3.6%）とディフェンシブ株としての下げ渋りを見せたが、引け後の2Q単体減益の開示に伴いPTSでは終値比−3%超の下落となった[16]。安定した配当利回りと非通信領域の育成という長期基盤はあるものの、短期的には収益モメンタムの足踏みが意識される結果となった。

不動産業セクター

不動産業セクターの三井不動産（証券コード：8801、プライム市場）は、15時30分に2027年3月期第2四半期累計（4-9月）決算を発表した[26]。上期の連結経常利益は前年同期比25%減益で着地し、同時に自己株式取得の実施を公表した[26]。通期の連結経常利益見通し（会社予想）は前期比0.5%増益とする期首予想を据え置いている[5]。

当日の株式市場において不動産セクターは、市場全体の全面安商状に加え、金利上昇観測に伴う調達コスト増への懸念が重石となり、同社株の終値は前日比−7.2%安の1,612円と大きく売られた[28]。引け後に発表された上期経常25%減益は、物件売却益の計上タイミングなど期ずれ要因を含むものの、自社株買い発表による下支え効果を相殺し、PTSナイトセッションでは終値比−6.9%安の1,500円まで続落した[16]。都心部における大規模複合再開発や優良オフィスビル賃貸という1〜3年先の中長期資産価値は極めて高いものの、短期的には金利上昇局面におけるバリュエーション調整と業績進捗の遅れという二重の逆風に直面している。

セクター別勢力分布と市場構造分析

2026年11月6日の暴落局面において、各銘柄の決算内容と外部市場ショックがどのように相互作用したかを、業績モメンタムと地合い耐性の観点から下表の通り分類・整理した。

分類カテゴリー	該当銘柄	市場特性と価格形成のメカニズム
地合い超越・業績加速型 （サプライズ上方修正・増配）	santec Holdings (6777) TOWA (6315) メイコー (6787) ニチコン (6996)	日中はSOX指数暴落に伴うアルゴリズム売りで急落したが、引け後の大幅上方修正と増配によりPTSで二桁%の急反発を記録[3]。マクロの市場環境とは無関係に、独自の強固な実需（AIサーバー向け封止・光部品・高多層基板）が証明されたグループ。
中長期構造成長・押し目形成型 （好業績も換金売りに直面）	三菱重工業 (7011) フィックスターズ (3687)	通期最高益の上方修正や6期連続最高益予想を提示し、中長期（1～3年先）の成長ストーリーが極めて堅調[7]。しかし、日経平均3,643円安のパニック相場における流動性換金売りや主力株売却の対象となった[3]。ファンダメンタルズの毀損による下落ではない。
期待先行・調整先行型 （会社予想据え置き・利益率低下）	サンリオ (8136) 三井不動産 (8801) KDDI (9433)	業績自体は過去最高益や計画進捗の範囲内にあるものの、四半期単体での利益率低下や会社予想の据え置き、金利上昇警戒が嫌気された[20]。過度なリスクオフ局面では市場期待との微小なギャップが激しい売りを誘発する典型例。

結論と今後の投資環境への示唆

本日の東証決算発表および急落相場の分析から得られる示唆は、全体相場がマクロショックによって歴史的な下落を見せる局面においてこそ、企業の「本質的な稼ぐ力」と「株主還元に対する経営姿勢」が市場参加者によって冷徹に選別されるという点である。

第1に、半導体・先端エレクトロニクス関連において、生成AIやデータセンターの物理的インフラ構築

に直結する製造装置やキーパーツを手掛ける企業（TOWA、santec、メイコー）は、マクロのハイテク株売りを覆す大幅な上方修正と増配を打ち出した[11]。米国の景気減速やハイテク大手の設備投資見直しといった全体懸念が存在する中でも、特定のボトルネック技術を握る企業群は強靭なプライシングパワーと収益成長を維持している。全体相場の急落によってもたらされたバリュエーションの低下は、これら優良サプライチェーン企業の実態価値を浮き彫りにする。

第2に、三菱重工業に代表される国策テーマ銘柄（防衛予算拡充およびエネルギー安全保障）は、短期的な市場のパニック商状において主力株ゆえの換金売りに晒されたものの、1〜3年のスパンで見れば長期契約に基づく収益の確度は極めて高い[6]。最高益予想の引き上げに加え、自社株買い・消却を機動的に実行する姿勢は、資本効率改善に対する明確なコミットメントを示している[7]。

第3に、サンリオや三井不動産の株価動向が示すように、市場全体のボラティリティが急上昇する環境下では、事前の期待値が高水準に達していた銘柄に対する評価基準が極めて厳格化する[17]。増益決算であっても会社計画が据え置かれた場合や、四半期単位でのマージン悪化が見られた場合には、容赦のないマルチプル収縮が発生する。

歴史的な急落日における投資判断においては、株価下落の背景が「インデックス主導の投げ売り」なのか「個別企業の成長シナリオの毀損」なのかを峻別し、長期的なキャッシュフロー創出力と還元余力を備えた銘柄を見極めることが極めて重要である。

本レポートは開示情報および市場データに基づく客観的な情報整理を目的としたものであり、特定の有価証券の取得・売却等の投資行動を勧誘または助言するものではありません。

参照情報源一覧

本レポートの作成にあたり参照した適時開示情報（TDnet）および株探の関連資料は以下の通りである。

- 三菱重工業 **(7011)**
  - 適時開示情報（TDnet）：2027年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔IFRS〕（連結）[6]
  - 株探ニュース：三菱重、今期最終を16%上方修正・最高益予想を上乗せ (2026/11/06 13:30)[7]
- TOWA **(6315)**
  - 株探ニュース：TOWA、今期経常を25%上方修正・5期ぶり最高益、配当も6円増額 (2026/11/06 15:30)[11]
- santec Holdings **(6777)**
  - 株探ニュース：santec、今期経常を48%上方修正・最高益予想を上乗せ、配当も100円増額 (2026/11/06 15:40)[13]
- メイコー **(6787)**
  - 株探ニュース：本日の【サプライズ決算】速報 (11月06日 16:36)[14]
- ニチコン **(6996)**
  - 株探ニュース：ニチコン、今期経常を39%上方修正 (2026/11/06 15:30)[19]
- サンリオ **(8136)**
  - 株探ニュース：サンリオ、上期経常が8%増益で着地・7-9月期も5%増益 (2026/11/06 15:30)[21]
  - 株探ニュース：サンリオの上期営業利益は9.4%増で過去最高を更新 (2026/11/06 16:12)[20]
- フィックスターズ **(3687)**
  - 株探ニュース：Fスターズ、今期経常は7%増で6期連続最高益、3円増配へ (2026/11/06

16:30)[23]

- KDDI **(9433)**
  - 株探ニュース：KDDI、上期最終が1%増益で着地・7-9月期は16%減益 (2026/11/06 15:45)[24]
- 三井不動産 **(8801)**
  - 株探ニュース：三井不、上期経常は25%減益で着地 (2026/11/06 15:30)[26]
  - 株探ニュース：三井不、自社株買いの実施を発表 (2026/11/06 15:30)[27]
- マクロ市場動向
  - 株探ニュース：日経平均6日大引け＝5日続落、3643円安の5万7434円 (2026/11/06 15:32)[1]
  - 株探ニュース：東京株式（大引け）＝3643円安、AI・半導体が急落し史上3番目の下げ幅 (2026/11/06 16:10)[3]
  - 株探ニュース：本日の決算発表予定 … 三菱重、サンリオ、KDDIなど 255社 (2026/11/06 06:00)[5]
  - 株探ニュース：[PTS]ナイトタイムセッション17時30分時点 (2026/11/06 17:33)[16]

引用文献

1. 日経平均6日大引け＝5日続落、3643円安の5万7434円 - 株探, https://s.kabutan.jp/news/n202611061447/
2. 【↓】日経平均 大引け｜ 5日続落、半導体関連中心に値を崩し6万円, https://finance.yahoo.co.jp/news/detail/3d91b91d38ae7e5f86034a487ad8f5cd1ab54d58
3. 東京株式（大引け）＝3643円安、AI・半導体が急落し史上3, https://kabutan.jp/news/marketnews/?b=n202611061585
4. S&P500見通し（11/6～11/13）｜CoreWeave決算と米CPIで7,300, https://www.gaitame.com/media/entry/2026/11/06/115225
5. 本日の決算発表予定 … 三菱重、サンリオ、KDDIなど 255社 (11, https://kabutan.jp/news/marketnews/?b=n202611060133
6. 2027年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔IFRS〕（連結）, https://tdnet-pdf.kabutan.jp/20261106/140120261102562991.pdf
7. 三菱重、今期最終を16%上方修正・最高益予想を上乗せ - 株探, https://kabutan.jp/news/?b=k202611060047
8. 三菱重、自社株の買付と消却を発表 - 株探, https://kabutan.jp/news/marketnews/?b=n202611061176
9. 三菱重は6日続落、27年3月期業績予想の上方修正と自社株 ... - 株探, https://kabutan.jp/news/marketnews/?b=n202611061308
10. 本日のランキング【約定回数 増加率】(11月6日) - 株探, https://s.kabutan.jp/news/n202611061489/
11. TOWA、今期経常を25%上方修正・5期ぶり最高益、配当も6円増額, https://kabutan.jp/news/marketnews/?b=k202611060103
12. 本日のランキング【寄付からの値上がり率】(11月6日) - 株探, https://s.kabutan.jp/news/n202611061483/
13. 今期経常を48%上方修正・最高益予想を上乗せ、配当も100円増額, https://s.kabutan.jp/news/k202611060213/

14. https://kabutan.jp/news/marketnews/?b=n202611061640
15. 本日の【サプライズ決算】続報 (11月06日) - 株探, https://kabutan.jp/news/marketnews/?b=n202611061732
16. [PTS]ナイトタイムセッション17時30分時点 上昇241銘柄・下落136, https://s.kabutan.jp/news/n202611061707/
17. [PTS]デイタイムセッション終了 15時30分以降の上昇1175銘柄, https://kabutan.jp/news/marketnews/?&b=n202611061629
18. 日経平均は大幅続落、米半導体株安を受け全面安の展開 - 株探, https://kabutan.jp/news/marketnews/?b=n202611061103
19. ニチコン、今期経常を39%上方修正 - 株探, https://kabutan.jp/news/?b=k202611060106
20. サンリオの上期営業利益は9．4%増で過去最高を更新 - 株探, https://s.kabutan.jp/news/n202611061588/
21. サンリオ、上期経常が8%増益で着地・7-9月期も5%増益 - 株探, https://s.kabutan.jp/news/k202611060186/
22. 下抜き】引け 上抜け＝ 23 銘柄 下抜け＝ 735 銘柄 (11月6日) - 株探, https://s.kabutan.jp/news/n202611061472/
23. Fスターズ、今期経常は7%増で6期連続最高益、3円増配へ - 株探, https://s.kabutan.jp/news/k202611060275/
24. KDDI、上期最終が1%増益で着地・7-9月期は16%減益 - 株探, https://kabutan.jp/news/?b=k202611060218
25. 本日の決算発表予定 … 三菱重、サンリオ、KDDIなど 255社 (11, https://s.kabutan.jp/news/n202611060133/
26. 三井不、上期経常は25%減益で着地 - 株探, https://s.kabutan.jp/news/k202611060112/
27. 三井不、自社株買いの実施を発表 - 株探, https://s.kabutan.jp/news/n202611061423/
28. 売り・転換】引け 買い＝ 39 銘柄 売り＝ 730 銘柄 (11月6日) - 株探, https://s.kabutan.jp/news/n202611061468/
29. 東京株式市場は全面安の展開、日経平均株価3643円安…5か月, https://www.yomiuri.co.jp/economy/20261106-GYT1T00195/
30. Fスターズ、今期経常は7%増で6期連続最高益、3円増配へ - 株探, https://kabutan.jp/news/marketnews/?&b=k202611060275